

## 甲虫 ニュース

## COLEOPTERISTS' NEWS

No. 70 October 1985



## 日本産ジョウカイモドキ科の分類学的覚え書 I\*

佐藤 正孝

日本のジョウカイモドキ科については、KIESENWETTER (1874), LEWIS (1895) によって研究が始められて以降、PIC (1904~1933), WITTMER (1953~1982), 中根 (1955~1983), その他によって約 40 種が知られるところとなっている。しかし、それらの中には、まだ検討を要することが多く残されている。筆者は、故大林一夫氏の残された多くの資料を、ご家族のご好意で自由に使用することを許されて、研究を開始した。さらに、中條道夫香川大学名誉教授のご好意によって、所蔵標本を全面的に使用することのお許しや虫友達の助力も加わり、さらに研究標本も充実してきた。また、最も親しくしているこの類の権威者、W. WITTMER 博士のご援助もあって、いろいろな問題も少しずつではあるが、解決してきた。そこで、それらの知見について一応の結果を報告しておきたい。

この報告をするに当たり、上記諸氏に厚くお礼を申し上げます。

## 亜科および属の検索表

- 1(6) 前胸腹板の側方に肉質付属物がない。上翅側片は認められる。  
 2(3) 爪には膜質付属物がなく、基部が膨れる。頭部は前方へよく伸長する。眼は内側が嚙入する。上翅側片は明らかに認められる。(Prionocerinae) .....  
 ..... *Idgia* ホソジョウカイモドキ属

- 3(2) 爪には膜質付属物があり、基部は膨れない。頭部は普通で前方へ伸長しない。眼は単純。(Dasytinae)  
 4(5) 前胸背板の側縁は鋸歯状となる。触角は先端5節がこん棒状となる。背面は剛毛のみを有する。.....

*Celsus* コケンジョウカイモドキ属

- 5(4) 前胸背板の側縁は単純、触角は糸状または弱い鋸歯状、背面に細毛と剛毛を有する.....  
 ..... *Dasytes* ケンジョウカイモドキ属

- 6(1) 前胸腹板の側方に肉質付属物がある。上翅側片は認められない。(Malachiinae)

- 7(8) 上翅は短く、腹部の大半が露出する.....  
 ..... *Carphuroides* コバネジョウカイモドキ属

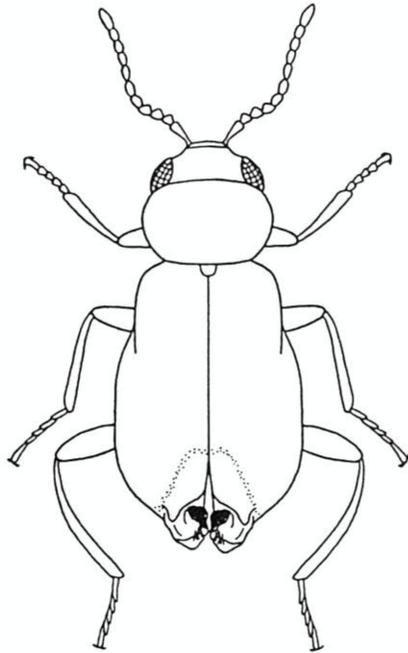
- 8(7) 上翅は完全で、腹部のほとんどをおおい、ときに尾節板が露出する。

- 9(10) 触角は10節で、第1, 2節が大きくなり、♂の第2節はいろいろな形に変形する.....  
 ..... *Laius* オビジョウカイモドキ属

- 10(9) 触角は11節で、ときに第1節が大きくなることはあるが、他の節は変らない。

- 11(14) 触角窩は眼の内側にある。

- 12(13) 頭部は♂♀ともに同形で、頭頂に小さな丸い



*Hypebaeus ohbayashii* (WITTMER)  
 スソキヒメジョウカイモドキ

\* M. SATO, Taxonomic notes on Melyridae of Japan, I

- くぼみがある……………  
 ……*Malachius* ツマキアオジョウカイモドキ属
- 13(12) 頭部は、♂ではいちじるしくくぼみ、後頭から突起がでるが、♀では前頭が浅くくぼみだけ……………  
 ……*Anhomodactylus* コアオジョウカイモドキ属
- 14(11) 触角窩は前頭の前縁にある。
- 15(16) ♂の前肢附節の第 2 節は単純……………  
 ……*Hypebaeus* ヒメジョウカイモドキ属
- 16(15) ♂の前肢附節の第 2 節は第 3 節をおおうように突出し、先端は櫛歯状となる。
- 17(18) ♂の後胸腹板は後基節間に突起がある。♂の尾節板に棘がある……………  
 ……*Sternodealtalus* シリトゲジョウカイモドキ属
- 18(17) ♂の後胸腹板は単純で突起がない。♂の尾節板に棘がない。
- 19(20) 上翅は密な細毛におおわれるだけ、♂の上翅端は異形となり付属突起がある……………  
 ……*Ebaeus* クギヌスキヒメジョウカイモドキ属
- 20(19) 上翅は密な細毛とまばらな直立剛毛におおわれる。♂の上翅端は単純……………  
 ……*Attalus* ホソヒメジョウカイモドキ属

***Prionocerus coeruleipennis* PERTY**

ムネアカホソジョウカイモドキ

- Prionocerus coeruleipennis* PERTY, 1831, Obs. Coléopt. Ind. Orient.: 33, pl. 1, fig. 4 (India).
- Prionocerus brevicornis* SCHAUFUSS, 1887, Horae Soc. ent. ross., 21: 126, (♀), (Celebes).
- Prionocerus forticornis* SCHAUFUSS, 1887, Horae Soc. ent. ross., 21: 126, (♂), (Philippinen).
- Prionocerus fuscipennis* LEWIS, 1879, Ann. Mag. nat. Hist. (5) 4: 464, (♀), (Yokohama). —Nakane, 1983, Kitakyûshû-no-Konchû, 3: 166.
- Prionocerus tereticollis* STURM, 1826, Cat. Käfers.: 170
- Prionocerus coeruleipennis* var. *diversicollis* PIC, 1920, Échange, 36 (402), hors-texte: 12 (Sumatra).

頭部、肢は黒色で青色光沢があり、上翅、体下面は♂では金属光沢のある青色、♀ではやや緑色を帯びる。前胸背板は橙色。触角は黒褐色で、先端節は淡色となる。

頭部は前方へ伸長し、頭楯および上唇は明瞭。触角は長く、第 2 節は最も短く、第 4~10 節は鋸歯状で先端へ向かって幅広くなり、第 11 節は中央がくびれる。前胸背は前縁が弧状となり、側縁は後方へ狭まり、前・後縁角はともにまるまる。上翅は後方へやや幅広くなり、密に点刻され、かすかな 3 本の点刻列を有する。体長: 8-11 mm。

分布: 中国(雲南、海南島)、フィリッピン、ヴェトナム、タイ、マレーシア、スマトラ、アンダマン諸島、セレベス、オーストラリア、インド、アフリカ。

この種は熱帯地方に広く分布しているが、日本で

は LEWIS (1879) が横浜を原産地として *fuscipennis* なる種名のもとに記載して以降の記録がない。このような顕著な種が琉球列島を含めて、その後まったく日本で採集されないことは不思議であるが、おそらく日本土着の種ではないのであろう。LEWIS が記載に用いた標本は 1 ♀だけであるので、偶然熱帯地方から船か何かで運ばれた個体が得られたものか、産地ラベルを誤ったものと考えられる。参考までに邦文の記載を付しておく。

検視標本: 1 ♂, Tagaytai, Luzon, 12. vii. 1970, M. SATÔ; 1 ♀, Bilar-Longon, Bohol Is., 22. vii. 1970, M. SATÔ; 1 ♀, Bilar, Bohol Is., 3. viii. 1974, S. AE; 1 ♂, Mainit (Masara), alt. 400 m, N.E. of Tagum, Mindanao Is., 16. x. 1978, S. NAGAI; 1 ♀, Linao, B. Point, Palawan Is., i. 1984; 1 ♂, Doi Pui, Thailand, 3. v. 1983.

***Idgia flavicollis* REDTENBACHER**

ヤエヤマホソジョウカイモドキ

*Idgia flavicollis* REDTENBACHER, 1868, Reise Novara Zool., 2 (A): 111 (Hong Kong). —FAIRMAIRE, 1889, Ann. Soc. ent. France (6), 9: 45. —CHAMPION, 1919, Ann. Mag. nat. Hist. (9), 3: 339. —MIWA, 1931, Rept. Dept. Agr. Gov. Res. Inst. Formosa, 55: 107. —GRESSITT, 1939, Lingnan Sci. J. 18: 190.

*Idgia iriomoteana* NAKANE, 1980, Rept. Fac. Sci. Kagoshima Univ. (Earth Sci. & Biol.), 13: 129. (Iriomote-jima: Ohara). —NAKANE, 1983, Kitakyûshû-no-Konchû, 30: 166. **Syn. nov.**

中根 (1980) は、2 ♂に基づいて琉球列島西表島から *iriomoteana* を記載したが、香港から記載され台湾にも分布している *flavicollis* と区別できない。両者の区別点としてあげられた、より青色気味で体が小さく、前胸背の毛が顕著で、先端から 2 節目の腹板先端半分が黄色とあるのは、いずれも沢山の標本を見ると変異幅の中に入ってしまうので、上記のようにシノニムとして取り扱うのが妥当であろう。西表島では少ないようであるが、台湾では花上で普通に得られる。

分布: 琉球(西表島)、台湾、香港。

***Anhomodactylus eximius* (LEWIS)**

コアオジョウカイモドキ

*Malachius eximius* LEWIS, 1895, Ann. Mag. nat. Hist., (6), 16: 117, fig. 2 (♂), (Nagasaki, Osaka, Nikko, Kiga, Yokohama). —Nakane, 1957, Akitu, 6: 13.

*Anhomodactylus eximius*: MAYOR & WITTMER, 1981, Ent. basil., 6: 418. —NAKANE, 1983, Kitakyûshû-no-Konchû, 30: 163.

*Malachius ohbayashii* WITTMER, 1953, Ent. Rev. Japan, 6: 37(♀), (Gifu Pref.: Hirayu), **Syn. nov.**

*Anhomodactylus ohbayashii*: MAYOR & WITTMER,

1981, Ent. basil., 6: 418. —NAKANE, 1983, Kitakyūshū-no-Konchū, 30: 162.

LEWIS(1895)が記載した *eximius* は♂で, WITTMER (1953)が記載した *ohbayashii* は♀に相当する。後者の原記載は♀であることは明確であるが holotype と allotype を指定しているの、あたかも♂♀揃っているような感じを与える。筆者は幸にも *eximius* の holotype (大英自然史博物館所蔵) と *ohbayashii* の holotype (WITTMER 博士所蔵) および allotype (大林氏所蔵) を共に検することができた。なお、*ohbayashii* の原記載中の標本所蔵指定は逆に表示されているので、現在筆者の手許に allotype があることになる。

これら両者がこれまで別種扱いされてきたのは、採集される個体数が少ない上に♂♀同時に得られる機会がほとんどなく、さらに形態差の著しいことになったためと考えられる。幸なことに、馬場金太郎博士のご好意で♂♀同時に得られた標本を検することができ、この問題を解決することができた。これも一重に同博士の日頃のご努力の賜とここに敬意を表すると同時に心よく標本をご提供下さったご厚意に対し厚くお礼を申し上げる。

分布：本州（中部以北）。

檢視標本：1♀, Kuzukawa, Aomori Pref., 15. vi. 1956, K. SHIMOYAMA; 1♀, Sakata, Yamagata Pref., 28. v. 1953, K. SHIRAHATA; 3♂8♀, Kamiishikawa, Niigata Pref., 5. v. 1960, H. KOIKE; 1♂1♀, Tsugawa, Niigata Pref., 8. v. 1976, K. BABA; 1♂, Suginami, Tokyo, 28. iv. 1953, S. HISAMATSU.

***Hypebaeus ohbayashii* (WITTMER), comb. nov.**

スノキヒメジョウカイモドキ

*ebaeus ohbayashii* WITTMER, 1954, Mitt. schweiz. Ent. Ges. 27: 113 (Shinano: Kamikochi) —NAKANE, 1956, Akitu, 5: 66. —NAKANE, 1983, Kitakyūshū-no-Konchū, 30: 162.

上高地産の1♂に基づいて記載されて以降の記録がまったくない。Holotype を検することができ、♂前附節の第2節は単純で櫛状部のないことを確かめたので、*Hypebaeus* 属に移した。

分布：本州（中部）。

***Ebaeus oblongulus* (KIESENWETTER)**

クギヌキヒメジョウカイモドキ

*Hypebaeus oblongulus* KIESENWETTER, 1874, Berl. ent. Z., 18: 287 (Japonia). —NAKANE, 1955, Sci. Rept. Saikyo Univ., (Nat. & Liv. Sci.) 2, A: 34. —NAKANE, 1956, Akitu, 5: 66. fig. 1.

*Ebaeus oblongulus*: NAKANE, 1963, Icon. Ins. Japon. Col. nat. ed. 2, 183, pl. 93, figs. 2 a, b. —NAKANE, 1983, Kitakyūshū-no-Konchū, 30: 162.

*Ebaeus chujoi* WITTMER, 1954, Mitt. schweiz. ent. Ges. 27: 113, fig. 3 (Tokushima Pref.:

Bizan). —NAKANE, 1956, Akitu, 5: 66. —NAKANE, 1983, Kitakyūshū-no-Konchū, 30: 162. Syn. nov.

*Hypobaeus chloroticus* KIESENWETTER, in litt. in coll. British Museum, (♀). Nom. nud.

これまで本州西部および九州に分布するものを *oblongulus*, 四国に分布するものを *chujoi* としてきた。その識別点は♂翅端の突起にあるとされていたが、多くの標本を検すると多少の変異がある。*E. chujoi* の holotype を検することができたが、*oblongulus* の変異幅の中に納まるひとつにすぎないと考え、そのシノニムとして取り扱いたい。また、大英自然史博物館に所蔵されている *oblongulus* の holotype (♂) と併せ、♀に相当する標本に *chloroticus* とタイプラベルの付されたものを検することができた。しかし、この種名は実際に記載されたことがないようで無効名ということになる。また、属名は *Hypobaeus* と綴られているが、明らかに誤りである。

分布：本州（西部）、四国、九州。

***Hypebaeus kiotoensis* PIC**

*Hypebaeus kiotoensis* PIC, 1954, Divers. Ent., (13): 4 (Japan: Kyoto).

? = *Ebaeus oblongulus* (KIESENWETTER)

この種は、京都産の標本に基づいて PIC (1954) が *oblongulus* の近縁種として記載した。その識別点は、色彩がオリーブ色気味で上翅側方が淡色となるとしている。しかし、*oblongulus* は通常濃褐色で上翅側方が淡色であるが、よく成熟した個体では黒褐色で全体にややオリーブ色気味となり、側方の淡色部が消失する。このことから、多分 *kiotoensis* は *oblongulus* のシノニムと考えられるが、簡単な記載だけでは何とも判断しがたい。

***Attalus* (s. str.) *elongatulus* LEWIS**

ホソヒメジョウカイモドキ

*Attalus elongatulus* LEWIS, 1895, Ann. Mag. nat. Hist., (6), 16: 117 (Nagasaki). —NAKANE, 1956, Akitu, 5: 66. —NAKANE, 1983, Kitakyūshū-no-Konchū, 30: 162.

*Attalus flavoapicalis* PIC, 1931, Échange, (446), hors-texte: 112 (Japan). —NAKANE, 1956, Akitu, 5: 66. —NAKANE, 1983, Kitakyūshū-no-Konchū, 30: 162. Syn. nov.

大英自然史博物館に所蔵されている *elongatulus* の holotype (♂) とバリ自然史博物館に所蔵されている *flavoapicalis* の holotype (♂) を検することができたが、両種ともに上翅端会合角は黄色となっている。とすると、この特徴をもって区別された後者は前者のシノニムということになる。さらにこの類の大きな特徴である♂尾節板の先端は突出して2又し、♀では先端が彎入するなど多少の変異はあるものの両者を別種とする程の根拠とはならない。

分布：四国、九州、隠岐、対馬、屋久島。

***Attalus (Nepachys) japonicus* KIESENWETTER**  
ヒメジョウウカイモドキ

*Attalus japonicus* KIESENWETTER, 1874, Berl. ent. Z., 18: 286 (Japonia). —NAKANE, 1956, Akitu, 5: 66.

*Attalus (Nepachys) japonicus*: WITTMER, 1982, Spec. Iss. Mem. Retir. Emer. Prof. M. Chûjô: 52. —NAKANE, 1983, Kitakyûshû no Konchû, 30: 163.

*Attalus tsushmanus* NAKANE, 1981, Fragm. Coleopt., (29/32): 128 (Tsushima = Izuhara). Syn. nov.

*Attalus (Nepachys) tsushmanus*: NAKANE, 1983, Kitakyûshû-no-Konchû, 30: 163.

*Attalus (Nepachys) ryukyuanus yamanei* NAKANE, 1984, Cons. Rept. Yaku-shima Wild. Area, Japan: 596 (Yakushima Is: Hanayama Natur. Forest). Syn. nov.

この種にごく近縁なものとして、中根(1981)は対馬から *tsushmanus* を記載し、その区別点として“♀尾節板の縦溝が前方で弱まり消失し、その両側があまり隆起しない”と記述している。さらに、中根(1984)は近縁種、*A. ryukyuanus* WITTMER の亜種として *yamanei* を記載し、その区別点として“♀尾節板先端中央に小さな湾入があり、その前方が凹んでいる”と記述している。いっぽう、*ryukyuanus* の♀尾節板は単に膨隆し、先福も単純にまるまっている。さて、各地の多数の標本を検討してみると、*japonicus* の♀尾節板背面の縦溝にはいろいろと変異が見られ、*tsushmanus* や *ryukyuanus yamanei* などの示す形状もその中含まれる。

*A. japonicus* と *ryukyuanus* の関係も非常に微妙なもので、亜種関係とも考えられるが、後者の♀尾節板の特徴に加え、♂尾節板先端の切れ込みが深く、脛・跗節が濃褐色となることから一応独立種としておきたい。

そこで、屋久島産がどちらの種に属するかの問題は、♀を検しただけではあるが、♀尾節板背面がくぼむことと脛・跗節が黄褐色を呈することから、これが *japonicus* に含まれると考えるとともに、その種内変異として亜種の区別は必要ないものとする。

日本以外で、済州島の標本を検することができたので、新分布として記録しておきたい。

分布: 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島; 済州島。検視標本: 1 ♀, Kannonji (alt. 600 m), Mt. Hanna, Quelpart Is., 13. vii. 1968; 1 ♂, 1 ♀, Shiitakegoya (alt. 800 m), Mt. Hanna, Quelpart Is., 14. vii. 1968; 1 ♂, Shiitakegoya-Kannonji, Mt. Hanna, Quelpart Is., 20. vii. 1968; 134 exs., from Japan. (New to the fauna of Quelpart Island)

## 参 考 文 献

GREINER, J., 1937. Malachiidae, Coleopterorum Catalogus, Pars 159, i+199 pp., W. Junk

GRESSITT, L., 1939. Some Priocercidae from

China, Hainan, Formosa and Cochinchina (Coleoptera). *Lingnan Sci. J.*, 18: 187-196, pl. 6.

KIESENWETTER, H. V., 1874. Die Malacodermata nach dem Ergebnisse der Sammlungen des Herrn G. LEWIS während der Jahre 1869-1871. *Berl. ent. Z.*, 18: 241-288.

LEWIS, G., 1879. On certain new species of Coleoptera from Japan. *Ann. Mag. nat. Hist.*, (5), 4: 459-467.

LEWIS, G., 1895. On the Dascillidae and Malacoderm Coleoptera of Japan. *Ann. Mag. nat. Hist.*, (6), 16: 98-122 pl. 6.

MARSHALL, M. Y., 1954. A key to the world genera of Malachiidae. *Coleopt. Bull.*, 8: 69-82.

MAYOR, A. and W. WITTMER, 1981. A new genus of Malachiidae from Asia (Coleoptera). *Ent. basil.*, 6: 416-419.

中根猛彦, 1956. 邦産クサジョウウカイモドキ類, *Akitu*, 5: 65-66.

中根猛彦, 1957. 邦産クサジョウウカイモドキ類(2), *Akitu*, 6: 13-14.

NAKANE, T., 1955. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XII. *Sci. Rept. Saikyo Univ.*, (Nat. & Liv. Sci.), (A) 2: 24-42, 1 pl.

NAKANE, T., 1980. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXXII. *Rept. Fac. Sci. Kagoshima Univ.*, (Earth Sci. & Biol.), (13): 127-130.

NAKANE, T., 1981. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXXIII. *Fragm. coleopt.*, (29/32): 125-130.

中根猛彦, 1983. 邦産ジョウウカイモドキ類の覚え書, 北九州の昆虫, 30: 161-166.

中根猛彦, 1983. 琉球のジョウウカイモドキ 2, 3 の記録, 昆虫と自然, 18 (14): 9.

中根猛彦, 1984. 屋久島に産する甲虫類について, 屋久島原生自然環境保全地域調査報告書: 587-631.

PIC, M., 1907. Coléoptères exotiques nouveaux ou peu connus (Suite). *Échange*, 23, (269): 134-135.

PIC, M., 1920. Diagonoses et notes sur le genre *Idgia* CAST. (Suite). *Échange*, 36, (402), hors-texte: 12.

PIC, M., 1931. Malacodermes exotiques. *Échange*, 446, hors-texte: 1-172.

PIC, M., 1954. Descriptions et notes. *Divers. Ent.*, 13: 4-12.

WITTMER, W., 1953. 15. Beitrag zur Kenntnis der Palaearktischen Malacodermata, Col. *Ent. Rev. Japan*, 6: 35-37.

WITTMER, W., 1954. 20. Beitrag zur Kenntnis

der Palaearktischen Malacodermata (Col.).  
*Mitt. schweiz. ent. Ges.*, 27: 109-114.

WITTMER, W., 1971. Cantharidae und Malachiidae von den Inseln Okinawa und Ryukyu, Gesamelt durch Herrn Prof. Dr. M. CHÛjô. In Coleoptera of the Loo-choo Archipelago (III) by M. CHÛjô. *Mem. Fac. Educ. Kagawa Univ.*,

(2), (202): 16-17.

WITTMER, W., 1982. Zur Kenntnis der Malachiidae (Coleoptera) des Ryukyu Archipels (70 Beitrag zur Kenntnis der palaearktischen Malachiidae). *Spec. Iss. Mem. Retir. Emer. Prof. M. Chûjo*: 51-54.

(名古屋女子大学)

***Limonius brunneus* LEWIS** という  
コメツキムシについて

本種は G. LEWIS が日光において 1881 年の 8 月に 2 頭(雌雄)の個体を採集し、新種として 1894 年に記載した種であるが、その後今日までその実体について詳しく検討されたことがなく、なぞの種とされているものである。

G. LEWIS が日本から新種として記載した多くの種は、一部行方不明になっているが、大部分のものは British Museum (N. H.) に保管されている。



*Limonius brunneus* LEWIS のタイプ標本とラベル  
[British Museum (N. H.) に所蔵]

筆者が VON HAYEK 女史の厚意で借用して調査した標本は図示(図 1)したような体長 9.5 mm の雄個体で、台紙の裏側には 11.8.81 と記されており、8 月 11 日に採集されたものである。体は赤褐色(アメ色)で光沢があり、触角の第 2, 3 節は短小ではほぼ等長、第 4 節より鋸歯状を呈している。前頭横線はよく発達して前方へ伸長、その内側部には 1 対の凹陥部を有する。目は大きく突出している。前胸背板の後角には明らかに隆起線を有する。肢の跗節は簡単である。

本種の外形は *Scutellathous* 属や *Harminathous* 属のものによく似ており、岸井(1985)\* が指摘し

ているようなカタアカホソコメツキ *Athousius humeralis* (MIWA, 1927) の雌個体とは全く異なる種である。G. LEWIS (1894) が本種を *Limonius* 属に所属するものとしたのは、触角の第 2, 3 節が短小であること、肢の跗節が簡単であることによるものと思われるが、本種の前胸腹板線は細く、前端が凹溝状をしていないことなど、どちらかと云えば、*Athous* グループにより近いものと判断される。

本種のタイプ標本については、鈴木 互博士も British Museum (N. H.) で調査されているので、いずれ同氏の見解も明らかにされると思われるが、この報告が日本での本種の再発見のきっかけにでもなれば幸いである。

\*岸井(1985)月刊むし, 175: 8~10.

(岡崎国立共同研究機構, 大平 仁夫)

○モンケンガムシ, 福岡県の記録

モンケンガムシ *Nipponocercyon shibatai* M. SATÔ は 1963 年、佐藤正孝氏により大阪府箕面産のものをホロタイプに奈良県春日、大阪府能勢産のものをパラタイプに記載された。その後の記録は筆者は知らないが、分布は本州のみの様である。

筆者は福岡県平尾台にて採集された本種の標本を持っているので記録しておきたい。

12 頭, 21. XI. 1983, 田中真悟採集。

何れも落葉下より採集されたものである。紋の変異は殆んどなく、安定している。

末筆ではあるが、標本を御恵与下さった田中真悟氏に厚く御礼申しあげる。

(神奈川県小田原市, 平野幸彦)

○クワガタムシ用バナナトラップに誘引されたコメツキムシ

最近クワガタムシを採集するのにさかんに用いられているバナナトラップは、クワガタムシばかりでなく、多くの昆虫、とくに樹液に集まる昆虫に強い誘引効果が認められている。筆者は川田一之・早川浩之の両氏よりこのバナナトラップによって採集された奄美大島のコメツキムシをいただいたので、トラップに誘引された甲虫の一資料として報告しておく。

なお、採集はバナナをストックの生地でつんだ簡単なトラップで、これを林道沿の木に設置しておき、夜間にみまわれるという方法で行なわれた。

1. ミヤケオオサビキリコ *Agrypnus miyakei*  
*miyakei* OHIRA, 1967

1 頭., 湯湾岳, 1. viii. 1985, 早川採集; 1 頭., 同上, 2. viii. 1985, 早川採集; 1 頭., 金作原 (きんさくばる), 27. viii. 1985, 川田採集; 1 頭., 同上, 29. viii. 1985, 川田採集; 2 頭., 長雲峠, 26. viii. 1985, 川田採集; 1 頭., 本茶 (ふんちゃ), 28. viii. 1985, 川田採集; 22 頭., 同上, 29. viii. 1985, 川田採集.

本種は灯火採集以外では複数採集される機会がほとんどなかったため, これまでかなり少ない種と考えられていた。川田氏の話では, 採集はしなかったものの, 実際にはこの数倍もの個体がトラップに集まっていたということなので, とくに珍しい種ではないようである。しかし, バナナの腐ったものに, このように強い誘引性を示すことは興味深い。

2. シロモンサビキコリ *Agrypnus scutellaris*  
*scutellaris* (CANDÈZE, 1893)

5 頭., 本茶, 29. viii. 1985, 川田採集.

3. アマミヒメサビキコリ *Agrypnus scrofa*  
*amamianus* KISHII, 1974

5 頭., 長雲峠, 28. viii. 1985, 川田採集.

これらの個体は木の根元に置かれたバナナトラップに集まったもので, 樹上のトラップからは得られなかった。

4. ミゾムネヒメサビキコリ *Agrypnus yuppe*  
(KISHII, 1964)

1 頭., 湯湾岳, 1. viii. 1985, 早川採集; 4 頭., 本茶, 28. viii. 1985, 川田採集; 9 頭., 同上, 29. viii. 1985, 川田採集.

5. オオナガコメツキ *Elater sieboldi* (CANDÈZE, 1873)

4 頭., 湯湾岳, 27. vii. 1985, 早川採集; 7 頭., 同上, 28. vii. 1985, 早川採集; 4 頭., 同上, 2. viii. 1985, 早川採集; 4 頭., 本茶, 26. viii. 1985, 川田採集; 1 ex., 同上, 28. viii. 1985, 川田採集; 1 頭., 金作原, 29. viii. 1985, 川田採集.

夜間灯火や樹液に集まることがこれまでに知られている。

末筆ながら, 貴重な標本を提供して下さった川田一之・早川浩之の両氏に深くお礼申し上げます。

(東京農大, 鈴木 互)

○沖縄島のゴミムシ数種の記録

琉球の沖縄島では未記録で分布の上からも興味深いゴミムシ類数種を報告する。貴重な標本を恵くださった採集者の松永育大氏 (琉球大学) に心から謝意を表したい。

1. ミナミチビカワゴミムシ *Tachys* (*Tachyta*)  
*umbrosus* MOTSCHULSKY

1 ♀, 与那覇岳, 15. x. 1983.

八重山の西表島から記録されていた。

2. トックリモドキナガゴミムシ *Dicaelindus*  
*ryukyensis* HABU

1 ♂, 西銘岳, 31. vi. 1984.

これまで基産地の南大東島と西表島のみから知られていた。特異な種で, 本属の最も北の記録となる。

3. ナガサキヒメナガゴミムシ *Pterostichus*  
(*Pledarus*) *procephalus* BATES

1 ♂, 1 ♀, 西原町棚原, 12. iv. 1983.

九州の長崎が基産地で, 近畿地方以南の沿海部に多い。沖縄島で得られたことは興味深く, 日本産本属の最南の記録になる。

4. ルリヒラタゴミムシ *Dicranoncus femoralis*  
CHAUDOIR

2 ♀, 与那覇岳, 6. xi. 1983.

きわめて分布の広い種で, 台湾にも産するが, 琉球からは知られていなかったと思う。

5. ウエノツヤゴモクムシ *Trichotichnus*  
(*Pseudotrichotichnus*) *uenoi* HABU

1 ♂, 1 ♀, 与那覇岳, 23. v. 1982.

奈良県の春日山が基産地で, 関東地方以南の沿海部や, 内陸部の照葉樹林で得られることが多い。沖縄島は最南の記録になる。

6. コバヤシツヤゴモクムシ *Trichotichnus*  
(*Trichotichnus*) *kobayashie* HABU

1 ♀, 与那覇岳, 6. xi. 1983.

伊豆諸島の青ヶ島が基産地。前種と同様に関東地方以南の沿海部に産し, 前種より島嶼性が強いようである。沖縄島は最南の記録になる。(千葉県船橋市, 笠原須磨生・長崎県江迎町, 松尾照男)

○ハマベゴミムシ千葉県の記録

ハマベゴミムシ *Pogonus japonicus* PUTZEYS は, 近畿・瀬戸内地方に採集例の多い海浜性歩行虫の稀種で, 関東地方では笠原 (1982)\* による千葉県行徳新浜の記録が唯一のものであった。

筆者はキバナガミズギワゴミムシ類 *Armatocillenus* の採集を目的に千葉県木更津市の小櫃川を訪れた際に本種を得ているので報告しておきたい。

1 頭, 7. vii. 1985. 採集地は河口近くのアン原で, 水辺に 2~3 cm の厚さに堆積した塵芥の下より得た。なお, 本種は同様の環境に見られるハマベミズギワゴミムシ *Bembidion semilutitum* BATES に良く似ており, 筆者も採集後しばらくは同種と思って放置しておいたほどである。

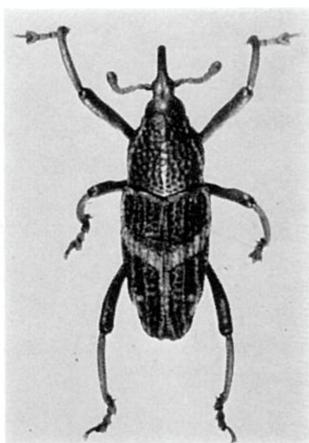
\* 笠原須磨生, 1982, 千葉県の歩行虫, 千葉生物誌, 32: 7~8, 15.

(神奈川県川崎市, 田尾美野留)

○クニヨシシロオビゾウムシを沖縄本島で採集

クニヨシシロオビゾウムシ *Cryptoderma kuniyoshii* MORIMOTO は, 西表島産の 2 ♀ 1 ♀ に基づいて記載された。森本 桂博士によると, 大型種 (14.5~15 mm) であるにもかかわらず, 原記載以降の記録はないとのことである。筆者は, 以下のように本種を沖縄本島で採集しているので報告する。

1 ♂, 沖縄本島伊豆味, 30. iv. 1984, 谷角素彦採集.



炎天下、林縁部の日陰になったシダ類の葉上に静止していたものを採集した。なお、この個体は 8.7 mm と原記載のものに比べて著しく小型である。また、西表島での記録は 10 月 5 日であるのに対し、今回は 4 月の採集例であることも付記しておく。

本種の同定をしていただき、発表にあたりいろいろとご教示くださった森本 桂博士に深謝したい。

(大阪市茨木市、谷角素彦)

○屋久島新記録のベニボタル

ツヤバネベニボタル *Calochromus rubrovestitus* NAKANE et OHBAYASHI はわが国の特産種で、これまでのところ、本州、四国、九州の分布が確認されている。少し古い記録になるが、以前、北九州の入江平吉氏から頂いたベニボタルの標本のなかに、屋久島産の本種を見出したもので、下記のデータにより同島新記録として報告しておく。

1♂1♀、屋久島宮之浦岳、15. vi. 1974、入江平吉採集。

末筆ながら本種の貴重な標本を恵んでくださった入江平吉氏に厚くお礼申し上げる。

(兵庫県宝塚市、松田 潔)

○赤銅色のヒメハンミョウモドキ

ヒメハンミョウモドキ *Elaphrus comatus* GOULET は通常、緑銅色であるが、まれに赤銅色のものがみられるという。赤銅色の個体がどの程度珍しいものかわからないが、筆者は北海道で次のように採集しているので報告しておく。

1頭、25. vi. 1981; 1頭、28. vi. 1981;

1頭、25. vii. 1982、以上 達古武沼(釧路)。

2頭、27. vi. 1981、阿寒湖。

上記の標本は、達古武沼(204頭)、阿寒湖(9頭)、そして帯広市(38頭)、糖路湖(9頭)、豊富(4頭)、釧路(2頭)の中から見出された。

(東京都港区、森田誠司)

○下甌島のベニボタル

筆者の 1 人今坂は、1982 年に鹿児島県下甌島の甲

虫相を調査した際、下記の 7 種のベニボタルを採集した。いずれも九州本土に広く分布する種であるが、これまで同島からのベニボタルの記録が無かったので、この機会に報告しておきたい。

1. ヒメクシヒゲベニボタル *Macrolycus similaris* NAKANE 1♀、鹿児島県薩摩郡下甌島尾岳、20. vi. 1982.

2. ホソベニボタル *Mesolycus atrorufus* (KIESENWETTER) 1♂、尾岳、20. vi. 1982; 1♂1♀、同、瀬々浦、18-19. vi. 1982.

3. クロハナボタル *Plateros coracinus* (KIESENWETTER) 13♂♂2♀♀、瀬々浦、16-21. vi. 1982.

4. ヤククロハナボタル *Plateros yaku* NAKANE 1♂、尾岳、22. vi. 1982.

本種は九州産ハナボタル属 *Plateros* のなかでは個体数が少なく、これまで鹿児島県からは、原産地の屋久島栗生と佐多、霧島山の記録しかなかった。

5. ミスジヒンベニボタル *Benibotarus spinicoxis* (KIESENWETTER) 1♀、瀬々浦、16. vi. 1982.

6. スミアカベニボタル *Conderis pictus* GORHAM 1♀、瀬々浦、22. vi. 1982.

7. ネアカクロベニボタル *Cautires bourgeoisi* (HAROLD) 6♂♂2♀♀、尾岳、16-22. vi. 1982; 7♂♂4♀♀、瀬々浦、16-21. vi. 1982.

今回の採集例を見る限り、下甌島産は九州本土産よりも、上翅肩部の赤紋がよく発達している。

なお、これらのベニボタルは、同島最高峰尾岳(標高 604 m)では山頂付近の葉上で、また瀬々浦(標高 300 m)では伐採地の林縁の葉上で採集されたものである。(兵庫県宝塚市、松田 潔・長崎県島原市、今坂正一)

○故江崎梯三博士がヨーロッパで採集されたハネカクシ 4 種

先日九州大学農学部昆虫学教室に保管されているハネカクシ科(ハネカクシ族, Staphylinini)の標本を調べていたところ、故江崎梯三博士がヨーロッパ外遊中に採集された 4 種のハネカクシが含まれていたため報告したい。未同定の方は後日発表の予定である。

1) *Emus hirtus* Linnaeus

1頭、Stalden, Valais, Suriss, 28. vii. 1924.

本属のハネカクシは日本に分布しないもので、頭部、前胸背前方、第 6~7 腹背板は美しい黄金長毛で覆われる。

2) *Staphylinus erythropterus* LINNAEUS

1頭、Finkenkrug, Berlin, 9. vi. 1924;

1頭、Papenberge, n. Berlin, 13. v. 1925.

3) *Staphylinus dimidiaticornis* GEMMINGER

1頭、München, 19. iv. 1925.

4) *Staphylinus ruficornis* BERNHAUER

1頭、Stalden, Valais, Swiss, 27. vii. 1924.

(九州大学農学部、直海俊一郎)

## ○タカネヒメハナカミキリの訪花例

タカネヒメハナカミキリ *Pidonia* (*Pidonia*) *tsukamotoi* Mizuno は原記載以降、長野・山梨・静岡各県下から数例の採集記録が報告されているが、それらは衰弱木を歩行中のもの<sup>1)</sup>、糖蜜を用いたベイト・トラップにかかったもの<sup>2)</sup>、スウィーピングによるもの<sup>3)</sup>、針葉樹幼木のビーティングによるもの<sup>3)</sup>等と同属の他種のように訪花中の個体が得られた例は従来知られておらず、採集例の少なさも相まって齊藤・鈴木(1982)も訪花性のない種である可能性を示唆している。ところが筆者は今回、南アルプス北沢峠付近にて訪花中の本種を観察・採集し得たので、初めての確実な訪花例として報告しておく。

1♂、長野県長谷村北沢峠下(標高1980m)、30.vii.1985(午前10時頃、天候:快晴)。

状況:大平小屋から藪沢方面への登山道を5分程行った地点でコマツガ・シラビソ原生林床のやや木漏れ日の当たった位置に咲いていたヤグルマソウ *Rodgersia podophylla* の花に、ホクチビハナ、ニセフタオビノミハナ等のハナカミキリに混じって訪れていた個体を発見した。約20秒の観察後、気配に気

づき落下しかけたため採集したが、他のハナカミキリ同様、明らかに花房に上半身をつつまみ後食活動をおこなっていた。

周囲はコマツガ・シラビソの実生も多く近年本種が比較的採集されている山梨県八丁平と似た環境であり、この後しばらくこれらのビーティングを試みたが追加個体は得られなかった。

- 1) 齊藤秀生・鈴木和利, 1982. 甲虫ニュース (56): 1-3.
- 2) 稲田健一, 1982. 月刊むし (140): 30.
- 3) 安部信明・武智昭一, 1984. 月刊むし (165): 34. (埼玉県浦和市, 平山洋人)



## ＜連絡・報告＞

◇会費について 前号の甲虫ニュース配布時にお願い致しましたが、本年度より会費を ¥3,000 に値上げさせていただきますので、宜敷くご協力のほどをお願い申し上げます。

◇12月例会について 恒例の12月例会は12月22日(日)に開催致します。詳細については改めてご連絡致しますが、年末の繁忙期でもありますので、あらかじめ予定に組んでいただき、多数の会員のご出席をお願い致します。

◇「日本産甲虫目録第6輯」の販売 かねてより印刷を進めておりました上記出版物が、今度ようやく発行の運びとなりましたので、内容および販売方法等についてお知らせ致します。

No. 25 ムクゲキスイムシ科(佐々治寛之)2頁; No. 26 テントウムシ科(同上), 24頁; No. 27 ホソキカワムシ科(同上)1頁; No. 28 ハムシ科[ヒゲナガハムシ科](木元新作)16頁; No. 29 ナガキタイムシ科(野瀬輝)3頁; No. 30 キクタイムシ科(同上)31頁。

このシリーズ(No. 25~No. 30)の販売に関しては既刊分と同様分冊せず、第6輯として一括販売し、TTS昆虫図書館にすべてを委託することになっています。購入を希望される方は直接同店宛にお申し込み下さい。

## 昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5号(各号100本180円)

なお、有頭針00, 0号もできました。その他、採集、標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

電話 (03) 409-6401 (ムシは一ばん)

振替 東京 21129

志賀昆虫普及社

販売価格は1セット(No. 25~No. 30) ¥3,500(送料別 ¥250)ですが、会員は同封の割引券をご利用されれば(1回限り) ¥3,000(送料別)で購入することができます。なお、TTS昆虫図書館への連絡は下記の通りです。

〒214 川崎市多摩区登戸新町14

Tel. (044) 911-8511 郵便振替 東京 0-73156.

TTS昆虫図書

◇訂正 No. 69 に学名の誤植がありましたので、ここに訂正いたします。

p. 5, 左側13行目

*Kraphelmis* → *Grâphelmis*

p. 5, 右側3行目

*Krouvellinus* → *Grôuvellinus* [世話人一同]

## 甲虫談話会

会費(一ケ年)3000円、次号は1月下旬発行予定

投稿〆切は12月30日

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話 (364) 2311, 振替東京 0-60664

印刷所 創文印刷工業株式会社

## タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,700, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3個以下 ¥1,300, 4個以上 ¥850(以下同様), 第2地帯 ¥1,500, ¥950, 第3地帯 ¥1,700, ¥1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥60)

## タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-212-25

電話 (03) 811-4547, 振替 6-113479